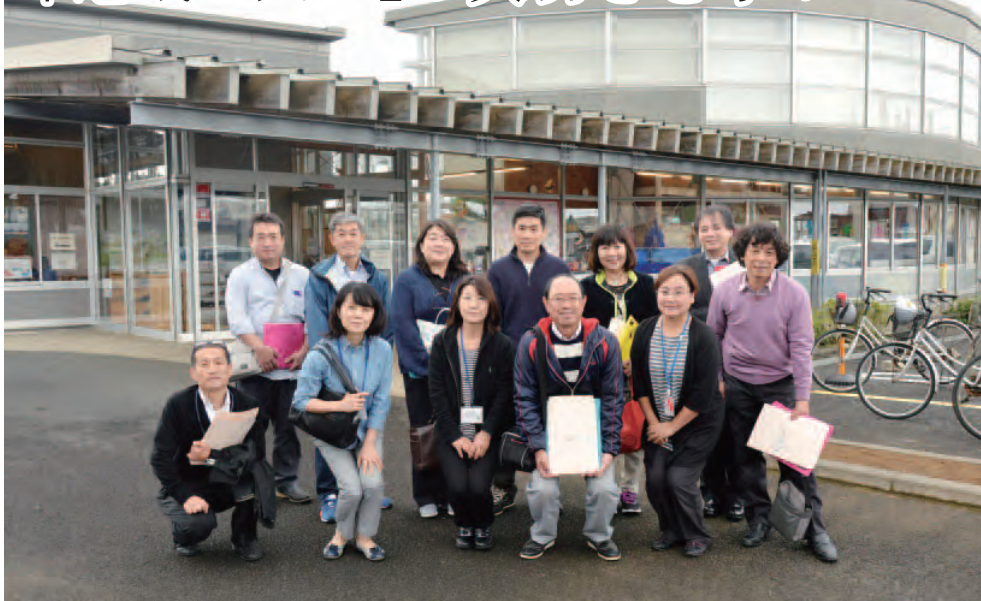


## 「地域と共に」の大切さを学ぶ



### INDEX

経営研修会報告	1
親睦委員会報告	2
臼井先生連載	2
会員企業訪問	3
例会委員会報告/本音トーク	4
スケジュール/編集後記	4



神栖市女性・子どもセンター  
山岡館長様

あと20年もすると近所の2件に1件が空き家になる……  
 そんな状態を考えられるでしょうか。人口が減れば私たちの顧客も減少します。現に1990年以降、廃業率は開業率を上回っているのです。

10月の土曜日、私たちは「地域創生・再生」について考える一環として神栖市と銚子市に現地視察に行きました。

この視察までに2回の勉強会を行い「経済人と地域の関係のあり方」について学びました。その中で、これまで経営者として経済人として、がむしゃらに経営だけに注力してきた私たちが、人口減が及ぼす経営環境の変化を乗り越えることは並大抵ではないことを痛感したのです。

もはや経営者の勳と努力と根性、ヒト・モノ・カネ情報だけでは会社は立ち行かなくなる、と。

しかし、国内には人口減少を克服している「豊かな地域」も存在するといえます。その豊かな地域・街を見てみたい。どうやって克服しているのか知りたい——それがこの現地視察の目的となったのです。

特に感動し勉強になったのは「神栖市女性・子どもセンター」への訪問でした。

現地では、山岡館長自ら館内の案内をしてくれました。40年前、神栖市は子供を増やす(住民を増やす)という目標を掲げ、施策を実行してきました。

神栖市役所には「こども課」があります。徹底的に子供を増やすという意気込みの表れです。館内に入るとワクワクした気に包まれ、子供たちと一緒に走り出したい衝動に駆られました。



約束事はいろいろありますが、縛りつけるものではなく、ゆったりとしたものです。子供たちを育てるお母さんの思いや悩みにいつでも対応できる心配りもされていました。

神栖市内には小学校の学区ごとに、このようなセンターを備えており、地域ぐるみで子供の成長を見守っているそうです。

今回の視察では、経営者であるという自覚はあるが、自らが地域の一員であるということを忘れていることに気づかされました。気づいたからには、今からの人生を地域との関係を密にして生きていきたいと思えます。

視察を終え、お昼には銚子の「一山いけす」にて、新鮮な海鮮ランチを味わいながら神栖市の取り組みについて率直な感想を語り合いました。

参加者は、講師の荒谷太司先生を含めて10名と多くはありませんが、それぞれが重要な気づきと新たな決意を胸に帰路につきました。  
 (研修委員長 桐谷美千子)

ひさびさに親睦委員会が開催した月星会親睦ボウリング大会に参加しました。

就学前の子から“高貴高齢者”まで年齢差のある方々が集って、和気あいあいと楽しくプレーをすることができました。

1レーン5名、2レーンで10名の設定は、ボールリターンにボールがあふれてプレーに支障が出てしまうので、4名でのプレーが望ましかったです。

ゲームは、ストライクは出るもののスプリットが多くイージーなスペアーも取れず、2ゲームで301点だったのですが、優勝とのことで驚きました。

表彰式で皆さんの前で賞品をいただきながら、昔々に優勝をした時、栗原さんの奥さんが女子の優勝者だったなんてことを懐かしく思い出しました。

今のボウリングは、本当にちっちゃな子供や女性も一緒に

に楽しめるので、恒例として開催してもよいのではと思います。

受付や表彰式など設営をしていただいた、木内委員長をはじめ親睦委員会の皆さん、お疲れさまでした。そしてありがとうございました。

ちなみに、今大会の参加者は、お子様2名、ビジター2名を加えて21名（懇親会に2名が参加して計23名）でした。また、岩田相談役、尾形会長、産方相談役、木内委員長、河野会員が景品協賛してくださいました。あらためて感謝申し上げます。  
(相談役 阿佐幸雄)



11月25日、仕切り直しとなった月星会ゴルフコンペが、久しぶりに開催されました。集合時間が7時と早く、前日参加者には委員長から念押しの確認電話が入ったにも関わらず、ぎりぎりドタバタのスタートとなりました。秋晴れの中のゴルフとはいきませんでした。皆楽しく久しぶりのゴルフを満喫していました。

私については、数日前にやったボウリングで右手の筋を痛め、鎮痛薬を飲んでの参加ということで少し不安はあったのですが、逆に力まずメンバーやゴルフ場にも恵まれて、楽しくラウンドすることができ、久しぶりに好スコアを出す事ができました。

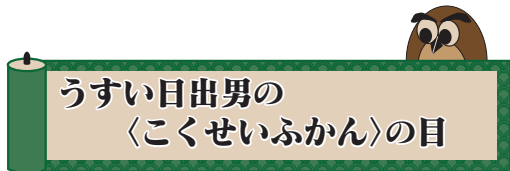
競技の方は新ペリアで争われたので全員にチャンスは

あったのですが、初めてのベスグロ優勝ということでも感激しました。

今回のコンペに参加されたのは、会員12名、ビジター2名の計14名で、岩田相談役、尾形会長、麻生会員、早野泰会員、木内委員長から景品のご提供にて協賛いただきました。大変ありがとうございました。  
(伊藤公俊)



連載



ブランドに胡座をかくな！

先般、ドイツの名門自動車メーカー、フォルクスワーゲンの排ガス検査の誤魔化しは、世界に衝撃を与えた。

この排ガス規制の違反が、単なる見落としなどではなく、排ガス検査の時だけデータが低く出る特殊なソフトウェア装置を取り付けたという意図的な極めて悪質な誤魔化しであったということで、これを行ったのが、名門VW社であったことが、波紋を大きくした。こうした小手先の偽装はやがては発覚することは自明の理で、名門の名前に胡座をかいた行為と考えられる。

このような名門企業の不正は他人事ではなく、日本でも横浜のマンションで、日本の著名な建設会社、三井不動産の販売したマンションが杭打ちの手抜きにより建物が傾いてしまった事件が起きている。あの有名企業の物件ならば、価格は高くても欠陥商品はないだろうと考え

るユーザーの信頼を裏切る大いなる背信行為である。

杭打ち工事を受け持った旭化成建材が行った工事が、全国で3000件あるというから問題はさらに広がっているのはご承知のとおりです。

また、日本の大手タイヤメーカー、東洋ゴム工業による防震データの改ざんが

二度にわたり発覚したことは、日本の物づくりに対する信頼を根底から崩しかねない大きな問題となっている。

近年、お隣の中国の商品に対する安全性を危惧する報道がなされており、一方、日本の商品の安全性が報道されているが、これらの事件は、そうした信頼を崩しかねない重大な瑕疵で、名門の名の上に胡座をかいた審りが生んだ油断としか考えられず、この際、一度立ち止まって、じっくりと反省してみる必要がある。



元衆議院議員 白井日出男



## 第21回 サロン・ド・樹樹

「お客はみんな家族、私は母親です」

前向きな心を磨いてくれるヘアサロン

### 「魂を洗う」店

再名生文江さんが経営するサロン・ド・樹樹は、少々風変わりなヘアサロンである。業種としてはヘアサロン、つまり美容院であることに間違いはないのだが、店内に入ってお客様とのやり取りを聞いてみると、何を商売にしているのかだんだんわからなくなってしまう。

通常のお店のように、お客が入ってきて「いらっしゃいませ」とは言わない。いきなり、「車で来たの?」とか「〇〇ちゃん、キャンペーン始まったよ」などと、まるで家族に話しているような会話になる。

互いに挨拶なしのこのやりとりで普通なら違和感を抱くところなのだが、なんだが空気は心地良い。

店内には、ケアを受ける客用の椅子が3脚と洗髪用の1脚、そのほかにベンチ型のソファがあったり、水素水の生成器が置いてあったり、一見、雑然としていて所狭しとさえ感じる。

ヘアケアやフェイスマッサージを受けるこのスペースの横には、ベッドが置かれたリラクゼーション用の小さな部屋も付いている。

全体として、普通のヘアサロンのような雰囲気はなく、看板を見て入った一見客なら「あれ、間違えました」と踵を返すかもしれない。サロン・ド・樹樹は予約制なので、そんな心配をする必要はないのだが……。

再名生さんは、言う。

「ここは、魂を洗う場所なんです」

かなり大仰な表現に思えるが、不自然さは感じない。再名生さんは、「魂を洗うなんてことばかり言うと、教祖様みたいになっちゃうから、あまり言わないけどね」と註釈を付け加えてくれた。

サロン・ド・樹樹は美容院なのだから、お客の外見を美しくするのが仕事である。しかし、外見が美しくなれば自ずとハッピーな気分になる。店に来てハッピーな気分になって帰ってもらうこと、それが「魂を洗う」という意味の一側面なのだろう。

取材中に、予約のお客さんが来店し、ケアを受けるべく鏡の前の椅子に座った。常連の女性らしく、再名生さんとすぐにおしゃべりを始めたのだが、髪をどうするこうするという話はほとんどなく、ヘアケアをしながら二人の話は人生問答のように展開していった。

「私はここに来るみんなが幸せになってもらいたいの」

「お客が社長だろうとセレブだろうと、そんなことは関係



ない。一人の人間として、きれいになってもらわなきゃ」と、こんな話が延々と続くのである。

再名生さんは、こうも言う。

「ここに来てくれる人は、みんな家族です。私はみんなの母親。母親としてみんなを幸せにすること、それが私の仕事なのです」

そう言われると、前述の女性客と再名生さんのおしゃべりは、まさに母親と娘の会話だったような気がしてくる。

### 学ぶことが嬉しい

再名生さんは、子供の頃から苦勞の多い人生を送ってきた。生まれ育った宮城の家は貧しく、中学を卒業すると集団就職で上京。初めは洋裁の仕事に就き、給料は月にわずか2000円だった。

現在に置き換えると、5万円程度のレベルだろうか。その中から家に仕送りをしていたので、三食を十分に摂ることもできなかった。

「栄養失調ですよ。成長期に十分食べられなかったの、大人になっても身長は140センチ、体重は38キロしかありませんでした」

しかし、再名生さんが最も辛かったのは、食べられないことより高校や大学に行けなかったことだったと言う。

「中学の先生に、君なら奨学金をもらえるから、高校に進学したらどうだと言われたけど、弟や妹を養わなきゃいけないので泣く泣く集団就職したんです」

そのとき、恩師にこう約束したとか。

「弟や妹が学校を出て、私に時間ができるようになったら大学まで行けるようにがんばります」と。

実は、再名生さんは現在、法政大学の学生である。通信制で日本文学を学んでいる。目下、卒業論文を書いているところで、恩師もそのことをよく知っている。年賀状にはこう書いてきてくれるそうだ。

「文ちゃんが卒業証書を見せて帰ってくる日を楽しみにしているよ。それまでは死ねないな」

再名生さんは言う。「学ぶことがすごく嬉しい」と。

「魂を洗う」サロン・ド・樹樹にメディアが取材に訪れたことがある。30年ほど前のことだが、再名生さんが安全なパーマの方法を独自に開発したからだ。人生と仕事に対する再名生さんの“突破力”には感服する。

取材後、サービスでヘアケアとフェイスマッサージをしてくれた。帰宅後、私の顔を見た女房が「なんだかきれいになったね」と言ってくれた……。 (取材・文/奥平)

## 例会委員会報告

9月例会 平成27年9月24日

於：鮪割烹みどり

9月の夕食例会は、会員で衆議院議員の門山宏哲さんによる卓話でした。国会開催中の慌ただしい合間を縫って、まさに話題の「平和安全法制」について、国会議員として、また法律家としての立場から論点を整理し、かみ砕いてお話をいただきました。



時代に応じて変化してきた憲法9条の解釈、日本を取り巻く安全保障環境が変化する中で、国を守るために、また世界の平和に積極的に貢献するために必要な法整備であるということが理解できました。

このように直接国会議員の生の声を聞ける機会があるのも月星会の醍醐味です。

参加者は、会員26名でした。(例会委員長 永田洋子)

### 会員さんの日常本音トークあれこれ

#### 星野裕之さんの「プライドの話」の話

プライド(pride)——手元の英和辞書には、①(卑しいことを自分を自分に許さない)自尊心、②誇り、満足、自慢、得意、とあります。ほぼ日本語のように日常で使い、意味もほとんどの方がわかっている言葉ではないでしょうか。

歯科治療の仕事をしていて、全く初めて歯科に来る患者さんは、小さい子供か20歳くらいまでです。ほとんどの患者さんはどこかで治療されていて、その後当院にいらっしゃるわけです。

歯は自然治癒しませんので、治療の痕跡がはっきりとお口の中に残ります。つまり、今までに受けたDrの腕前がはっきりとわかってしまうのです。歯科治療は技術の差が、Drにより歴然と違います。

医療の基本は、自分の提供する治療を自分の家族や大切な人にできるか、です。その治療が「丁寧」になされたのかは、一目見ればわかります。今さら私が言うことではないのですが、治療にプライドを！あなたは、ハ(力)イシャですよ！



不適当な被せ物ですぐに痛くなることはないですが、段差から虫歯になり、歯石もたまりやすくなります。

### 会員異動

## 編集後記

もういつ寝るとクリスマス…という時期には発行が間に合いそうです。今年1年は新しいことにたくさん挑戦させていただきました。広報委員会もその大きな一つです。皆さんにとってはどのような1年でしたでしょうか。来年も月星会の皆さんにとって、素晴らしい1年になりますように！

(森本)  
会員企業訪問の取材雑感。再名生さんとの事前の約束は1時間でした。ところが私たちが店にいた時間は、なんと4時間！終始、再名生さんペースでした。底力を感じました。迫力に圧倒されました。自らの夢と目標に向かって着実に歩み続けていることに感服。「ここに来た人はみんな幸せになってもらいたい」の一言は、そんな再名生さんから自然に出てくる本音です。幸せな4時間でした。

(奥平)

10月例会 平成27年10月22日

於：鮪割烹みどり

10月の夕食例会は、会員で歯科医師の鷲見隆仁さんによる卓話でした。

歯周病は世界でもっとも多い病気であり、歯だけの問題ではなく心臓病、脳梗塞や糖尿病などの全身疾患にも影響すること、また高齢者の死因の1位であることを予防するにも口腔ケアが有効であることを、専門的な視点からわかりやすく説明してくださいました。



超高齢化社会においては、病気にならないための健康な体作りと検診による日頃からの予防、そして毎日の歯磨きが大切であると改めて認識しました。

参加者は、9月と同じく鷲見さんを含めて26名でした。

11月例会 平成27年11月26日

於：鮪割烹みどり

11月の夕食例会は、日本創成さざれ石の会の中島弘貴会長をお招きし、「君が代」に込められた意味について卓話をしていただきました。

ある時、学校で君が代の意味を知っているかを聞いたら2人しかいなかったということに危機感を覚え、以来、君が代の歌詞の解釈の普及活動をされているそうです。

「さざれ石」の実物もお持ちいただき、「さざれ石が巖になる」とは、単に長い時間のたとえというだけでなく、風化や破壊の結果としてできた大小の石が集まって再び形を成すという、創生の意味が込められているというお話でした。

世界で一番美しいとされる日本の国歌、例会の最後に全員で歌った「君が代」は会員の皆様も普段とはまた違った誇りを胸に歌われたのではないのでしょうか。

(10月、11月共、門山事務所・石原裕久)



## 1月～3月のスケジュール